

どこまでも柔軟に ～代表就任のご挨拶～

高津佳史

新しく代表に就任した高津です。コロナ一色の毎日ですが皆さまいかがお過ごしでしょうか。サヘルの森の設立は1987年ですから、今年で34年目になります。その間、マリでは民族紛争やクーデターの勃発、日本では阪神・東北の震災、近年の台風や大雨の被害と、コロナに限らず様々な騒乱や災害が発生してきました。

ご存じのように当会の設立のきっかけとなったのは、1980年代前半に発生したサヘル地域の大干ばつです。エチオピアなどに比べて、国内での認知度が低かった西アフリカにも支援の手をとということで、マリ共和国での活動に着手することになりました。

震災を機にボランティアやNPOが広まったように、今回のコロナ騒動でもテレワークや働き方改革が浸透し始めています。モバイル機器や通信網の急速な発達、マリは砂漠で暮らす人ともスマートフォンでのやり取りを可能にしました。現在進行中の首都バマコ近郊での活動も、こうしたリモートワーク形式で進められています。マリ人スタッフが地域苗畑を巡回して、活動状況を報告してもらいます。苗木を配った学校や苗木職人の話は、スタッフ経由で日本に届き、こちらからはアドバイスを送っています。

環境変化に合わせて住まいや暮らし方も変えて行く、これはサヘル地域の住民が得意とする生活様式です。どこまでも柔軟な彼らに倣って、私たちの活動も柔らかく且つしぶとく続けて行ければと考えています。

高津のプロフィール

青年海外協力隊でマリ、隣国ニジェールに派遣されていたのがきっかけで、サヘルの森と関わるようになりました。マリには2000年に短期派遣で行って以来です。

仕事で鳥の調査をしている関係で、鳥の巣を収集しています。地元の千葉県我孫子市で開催されるジャパン・バードフェスティバルには欠かさず参加して、サヘルの活動や鳥の巣の展示を行っています。